

議事概要	
会議の名称	令和6年度第1回長久手食育推進支援会議
開催日時	令和6年12月6日(金) 午前10時から午前11時30分まで
開催場所	会議室棟 会議室F
出席者氏名	委員 青山、安達、齋藤、日比野、丸山、山田、富田、前島 事務局 みどりの推進課長、同課農政係長、同課主事
傍聴者人数	なし
会議の公開・非公開	公開
審議の概要	議題 (1) 食育関係各課の取組状況について (2) 新規事業の今後の取組について (3) 令和6年度食育イベントの取組について (4) その他
問い合わせ先	長久手市建設部みどりの推進課 農政係 電話0561-56-0620 内線346
備考	

1 あいさつ

議事に先立ち、事務局みどりの推進課長よりあいさつ

長久手食育推進支援会議設置要綱（以下「設置要綱」という）第6条第2項の規程により、会議成立を報告した。

2 議題

(1) 食育関係各課の取組状況について

<事務局説明要旨>

令和6年11月14日に開催した令和6年度第1回食育推進部会の結果を中心に、現行計画である第3次長久手市食育推進計画の各課の取組状況について、資料1にそって報告した。

<発言要旨>

委員：コロナウイルス感染拡大についての記載があり、他の部署でも多数見受けられるが、現状市の方針はどうか。

事務局：5類に移行しているため、配慮の必要はあるが、市としては感染拡大の前のおり実施の方針であり、事業形態を変更しながら工夫して実施してい

く必要性があると考えている。

委員：4－1アの健康推進課の取組で、令和3年度に養成講座を開講。5年に1回程度開催予定とあるが、恐らくこちらは実施しないはず。

事務局：今年度の食育推進部会に、健康推進課が欠席であったため、詳細を確認できていない。後日担当課へ確認をし、修正を行う。

委員：先ほどの各課の課題についてだが、各課、課題を挙げているにとどまっているように思う。また、提案だが、数値目標の13のボランティア団体数は次期食育計画に必要なか検討してみてはどうか。

委員：食育に関して把握しているボランティア団体はどのような団体か。

事務局：社会福祉協議会に登録しているボランティア団体数を把握している。

委員：ボランティア情報の取得を、HPやインスタグラムなどでできると良い。

会長：市内で取り組んでいる情報発信の広報をみどりの推進課の窓口でできるか。HPや広報でボランティアの紹介をしてみてはどうか。

委員：様々な大学に一斉に発信できるツールがほしい。

会長：国・県・市と団体を登録する場所が多いため、団体も複数に登録するのは大変、県と連携できたらよいのでは。

(2) 新規事業の今後の取組について

<事務局説明要旨>

資料2にそって、みどりの推進課が担当する新規事業の今後の取組について、順に説明し、助言を受けた。

<発言要旨>

1-1 ライフスタイルに即したバランスのとれた食生活の実践

エ 講演会、情報発信、料理教室など、大学・学生等と連携しつつ、若い世代をターゲットとした新たな食育の場や機会を創出（検討）

会長：大学連携は、応募する研究室がたくさんあると思う。

事務局：継続して学生と付き合うことができるような仕組みを検討する必要がある。

会長：日進市は和菓子屋と大学サークルがコラボした。卒業研究でつながるのも手。教員が間にはいつてやるのがいいと考える。

委員：長久手は学生が多いまちなので、学生と上手に連携できるシステムが構築されるといい。

会長：少額でも報酬の支払いがあれば、応募するゼミはあると思う。

1-1 カ 高齢期における食育の推進

事務局：今年度の食育イベントについて、一般社団法人長久手アグサポ倶楽部（以下「アグサポ倶楽部」という。）に業務委託し、「真菜」の雑煮調理体験会の実施を考えています。

委員：今回のように、イベントの参加費をとるべきだと思う。イベントを実施する場合に収支を確認して参加費を検討するべき。

事務局：材料費を徴収することとし、12月広報でイベントの掲載をした。

委員：いい学びをして帰ってもらうために、対価として参加料を支払うことがよいと考えている。

3-2 ア 食を通じて環境に優しい暮らしを築く

事務局：昨年度は非常に多くの媒体で「真菜」をPRすることができたため、あぐりん村に問合せが多くあった。ただ、生産がすぐに対応できず、消費者が欲しい時期に出荷できなかった。

委員：「真菜」のロゴマークを作ってはどうか。

会長：JA あいち尾東で日進市産のマークを学生が作って貼っている。

事務局：そうしたアイディアで販売促進ができればよい。

委員：売り方は様々あると思うが、消費者が他の野菜と比べて買いたいと思うかどうか重要ではないか。

委員：正月には雑煮で食べるため、「真菜」が正月にスーパーに並んでいること、正月に食べることが当たり前だと消費者にすり込ませる公募でロゴを作成し、公募をきっかけに「真菜」を知ってもらうのも手だ。

委員：長久手市の公式LINE等で情報発信し、購入をしたい。

事務局：あぐりん村のインスタでは発信しているか。

委員：当日の情報発信は掲載している。期間の情報を提供できるのが良いが、そのためには農業者との連携と協力が必要不可欠。

委員：調理方法についてのリーフレットがあると、知らない野菜は手に取りやすいし興味を持ってもらえる。

委員：当たり前のことだが、消費者に何月から何月は「真菜」だということを知ってもらい、季節の野菜を食べることの重要性。郷土料理として長久手の雑煮は「真菜」が入っているというバックアップをしていけたら良い。子どもたちに根付いていけば、子が大人になり、さらに広がっていく。

事務局：おっしゃるようにストーリーを考え、戦略的に計画していくことが重要と考える。

委員：フレイル予防のための料理を健康測定会でやっているが、色々なイベントでチラシや種が配れると良いと思う。健康に関心がある人がたくさん集まるので、尚良いと思う。

委員：今期の「真菜」は現状育ってきているから、何月くらいに収穫できるというPR方法も良いのでは。

(3) 令和6年度食育イベントの取組について

<事務局説明要旨>

令和6年度に行う食育イベントについて、資料3に沿って説明した。

(4) その他について

<事務局説明要旨>

次回の支援会議の開催予定等について説明した。

以上

